

新宿区が入院待機施設

第6波に備え 12月下旬までに整備

東京都新宿区は19日、新型コロナウイルス感染症の「第6波」に備えて、入院が必要と判断されたのに入院先が見つからない患者を一時的に受け入れる「入院待機施設」を設けると発表した。12月下旬までに整備し、感染状況に応じて運営する。

今夏の感染第5波の際、入院調整に時間がかかる例が多かったことを受け、区医師会などと連携して対応策をとる。

入院待機施設の病床数は6床で、保健所の敷地内にある建物を改修し

対象とする。医師が1日2回往診し、看護師2人が常駐する体制で、酸素投与や点滴などを行う。主に搬送先が見つかりにくい夜間に患者を受け入れることを想定している。